

此の且書市を中心とする諸錯道も目
今々もあんな程のボーイスを解雇する
上野屋も下野し志井田お五仙の志
弗お仙の志井田お仙の志井田お仙の志
事かかると右様さういふ向のハ
多端のうらやま人間のある景気の状態
死んぞ目もまてられぬ程の悲死
か程の事目景気あるの日本一応
組合の多様性の花信風値上を突
し原米お五仙のものを或お五仙と
し山崎上子景気やのお仙(一食)ありし
をお立心の値上げせし為め労働者さ
勝くするやうな増量の高に促す
加したる困窮死に陥る下町の
お女人お人宛の宛泊者を以て
構たぐれぬ子述の右様さういふ
善通の一念をあきらめ能はず且ブ
レット一本の水を飲みしやうと送る
もの死んだと志井田とやうする者さへ
さうな惨状目にあてられぬ右様さ
はは、勿論目下市中の働かぬ少

しゆ多々い白人さへ（只展子及ルー
ムのみ）多々珍物甘んずる者悉
く子法性目白人の気展さへ
有るはおルドアア（Kalduppi）ハ毎夜
莊大なる街道に於て行はれり
一夜中子数回少あり一四ハ有る教
人罪を犯す者あり一四ハ有る教
子教風景極まる現世は往く
か「れバ」え向人の中すある極は
如新ふる景氣のつりハリーランド
大既叙時代一回と途かすかウボ
る南也戦争時の方多々ともヤ
此「これ」を以て「如」に現今の情
況を察するは餘あるとヤすへい
か「ふる」景氣極まる時ハ鬼南負
の盗人の増しハ「如」の毒子ハ又
氣の毒まのハ「如」の毒子ハ又
月氏ハ九月上旬ラゲランド大根園
へ越かれ一意者ハ「如」の毒子ハ又
海に多々類の貯金をあし本月七
日おせられ月日午後二時本坂の本

凡是の多々を掩るゝらんれ大板の金
子を腹巻の力に置かれしよ計らた
りきり氏より少しさき場より上から
し日本千人金子を盗取し何をもと
りなく逃走する千人金無実の金子に
ケ月の血と汗を依つて儲け得られし金
九枚五弗の由に流れたこの知らせ聖
ハはお出へ通を薦之の旨お出の目氏
子同情し四方捜索致したる何れ
充分の人相も分らぬ子故そ甲斐
多々るに及め皇市警察署より告訴
致す一人かと甚勅め申したる目氏の
とこの日本人の体面をおかれば子運もあ
きらめ告訴致すまじとありし
と尤も道理の一端有らざる故
生も平穏に致し只百接子盗取
捜索の致したるさるるに感心し
て敬服するさるの野氏の心か
いる大切なる大急を多謝
の爲め盗まれしお出の程ま
腕のせられず失物も戻りまはた

平身の子遇をしかたき終はす思ひ
 ありらぬよき子に到底おせぬ事
 上臆の者の企し及子まをさう
 敬慶の念の子地、目下の金
 子自由の時花をあるに五弗の金
 他日の五子弗の俵の中い、何
 見上様も日成の上をえ分の
 毎に終り子建は見え候を
 下きるるに五圓の借懸の懸
 以ては体取中し、先は
 幸しくは通ふまを此新ま
 時分極厳寒の候に
 身は出かち新し何れ近
 通信中より
 何れ近きは言定候
 子新
 田力

故書
 抄或母
 在扣市
 益田力

洪雨月様
 以新

If not call within 10 days
Return to M. Yasui
121 N. 15 St.
Portland, Ore.



孫安
中井
西尾
標

P.O. B. 106

Mr. F. T. Yasui,
Blivide,
Mont.

DIVIDE. MONT.
DEC
13
P.M.
1907
REG'D

Rec. 12/14